



台湾Walsin傘下の釜屋電機、電子部品メーカーの双信電機＜6938＞をTOBで子会社化



釜屋電機（神奈川県大和市）は30日、電子部品メーカー中堅の双信電機に対して子会社化を目的にTOB（株式公開買い付け）を実施すると発表した。過半の株式取得を目指しており、買付代金は最大35億9500万円。双信電機はTOBに賛同している。公開買付者の釜屋電機は台湾の電子部品メーカー、華新科技股份有限公司（Walsin）の傘下企業。双信電機の東証1部上場は維持される見通し。

双信電機株の約40％を保有する筆頭株主の日本ガイシは35％程度についてTOBに応じ、約5％を継続所有する。釜屋電機による買付価格は1株460円で、TOB公表前営業日の終値と同額。買付予定数は781万5600株。予定通りに買い付けができれば、所有割合は50.1％となる。買付予定数の下限は所有割合35.64％にあたる556万株に設定した。

買付期間は12月1日～2021年1月4日までの21営業日。決済の開始日は2021年1月12日。公開買付代理人は野村証券。

双信電機は1938年に天然鉱物の雲母を原料とした無線機に使われるマイカコンデンサーの専門メーカーとして発足した。